

* 研究目的

それぞれの学問領域には固有の外国語教育のニーズが存在する。例えば、①化学分野における化学専門用語及び化学理論理解のための英語教育、②学部で第二外国語としてのドイツ語を学習しドイツ語で文献を読みコミュニケーションを行うためのドイツ語教育、③日本に留学し生活言語として日本人と直接に意志伝達をはかり相互作用を行うための、現地生活に根差した留学生のための日本語教育など、ジャンルや教育目的によって求められる言語能力やスキルなどのニーズは異なっている。

一般的な広い目的のための外国語としての第二言語学習を SLGP (Second Language for General Purposes) と呼ぶなら、上記のような具体的なはっきりした目的のための第二言語学習は SLSP (Second Language for Specific Purposes) と呼ばれるべきものである。

「甲南大学生のための SLSP (Second Language for Specific Purposes) 教育の研究」においては、甲南大学理工学部機能分子化学科と国際言語文化センターのドイツ語と日本語の科目が協力し、甲南大学生のためのより良い SLSP (Second Language for Specific Purposes) 教育のために、ニーズ分析・コース評価・モチベーションとソーシャル・スキルを高める研究を目指して、自律した学習者としての甲南大学生を育成することを本チームの研究目的とする。

* 研究チームメンバーと研究課題

茶山 健二	甲南大学理工学部機能分子科学科 教授	化学英語教育実践のための学習 観考証
原田 登美	甲南大学国際言語文化センター・教授	日本の社会文化適応のための日本 語能力とソーシャル・スキル
藤原三枝子	甲南大学国際言語文化センター・教授	ドイツ語学習者の学習観と教材評 価
檀上 博史	甲南大学理工学部機能分子科学科 准教授	化学英語教育におけるニーズと インセンティブに関する考察